

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

B. 円滑な学位授与の促進

②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

《理工農系》

●筑波大学システム情報工学研究科リスク工学専攻

「達成度評価システムによる大学院教育実質化」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

達成度評価システムの実施は、各学生の履修状況の進展の程度を的確に把握し、それに応じて的確な教育指導が可能な反面、教員側負担が大きい。大学院 GP 実施中は、達成度評価システムプロトタイプの開発を主眼として相当の人手を費やしてきたが、プログラム終了後の現在、継続的に実施して行くに当たって、達成度評価システムの効果維持と省力化のバランスをどのように保っていくかの試行錯誤が続いている。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

学生に対するきめ細やかな対応と評価を基本的な理念とする達成度評価の実施においては、様々な手続き、学生との対応、資料のチェックや集約整理等、多大な事務的業務が発生する。一部は高度情報化を進めて効率的な処理が可能にしているが、個別の教員と学生の協議・指導等、資料のチェック等、人手を費やすことが不可欠な状況がある。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

現在、高度情報化を薦めることによって、煩雑な事務手続き・チェックを効率的に進める方策について検討するとともに、達成度評価システムで実施する項目や手続きの見直しを継続的に行っている。